

共通番号消えぬ不安

法案、国会審議入り

「共通番号制度」法案の国会審議が3日、衆院で始まった。政府は「行政サービスの向上につながる」と強調する。だが、すでに制度をとり入れた国々では情報が漏れて悪用される問題が起き、「監視社会」への不安もささやいている。

3日の衆院内閣委員会で、甘利明経済再生相は共通番号制度のメリットをこう訴えた。「国民の利便性が格段に向上し、きめ細かい社会保障にまつなる」制度案では国民全員に番号をふり、顔写真やIC（集積回路）チップつきの個人番号カードを渡す。政府や自治体はカードや番号を使い、納めた税金、年金や健康保険の情報などを入るデータベースから必要な情報を引き出せる。

■番号制度のメリットとデメリットは？

メリット	・年金や健康保険、納税などの手続きで書類をたくさん出さないで済み、簡単には保険料支払いや納税の状況を統合して管理、サービスをやりやすくなったり脱税などの不正を見抜きやすくなったりする
	・政府が国民の個人情報を管理しやすくなり、国民に対する監視が強まるおそれがある
デメリット	・番号が漏れ、なりすまして年金をだまし取るなど悪用のおそれがある
	・登録番号を告げ、レシートを出すだけで済むという。

法案づくりには自民、公明、民主3党が関わっており、今国会で成立する見通しだ。政府は2015年10月をめどに番号を郵送で知らせ、16年1月のスタートを目指している。